

# 令和4年度事業報告

## 1 概要

令和4年度は、コロナ禍からの社会経済活動の正常化が進みつつある中、緩やかな持ち直しが続いている一方で、世界的なエネルギー・食料価格の高騰や欧米各国の金融引き締めによる世界的な景気後退懸念など、我々を取り巻く環境には厳しさが増えています。ここ数年のコロナ禍は、会員数や事業実績の減少など、薩摩川内市シルバー人材センター（以下「センター」という。）事業も大きな影響を受けました。

会員数については、会員の勧誘や各種対策を積極的に取り組みましたが、前年度未就業者の年度当初における大量脱退が影響し、目標数を下回る結果となりました。

請負・委任事業では、昨年度に続き受託件数は減少しましたが、就業延人員・契約金額については増加に転じました。派遣事業については、これまで増加を続けてきましたが、コロナ禍の影響を受け、受託件数、派遣延人員、契約金額ともに減少しました。

安全・適正就業については、安全パトロールや「シルバーだより」による安全に対する注意喚起を積極的に取り組んでまいりましたが、傷害事故及び賠償責任事故とも、昨年を上回る結果となりました。特に、草刈り時における飛石の飛散による物損事故や剪定作業時における電線等の切断事故が多く発生しており、早急な対策が求められます。また10月には会員の内部疾患による重篤事故が発生しており、就業前の会員の健康状況の十分な把握が求められます。

事業運営については、引き続き業務の効率化や経費の節減に努めることで、支障が生じないようにいたしました。

## 2 目標値に対する実績（派遣事業を含む。）

区分	会員数	受託件数	就業延人員	契約金額
目標値	605人	5,913件	56,073人	311,636千円
実績	564人	5,557件	54,014人	305,537千円

## 3 実施内容

### (1) 会員組織の充実と活性化

- ① センターの基本理念である「自主・自立・共働・共助」の精神を基本に、会員相互の連帯感の醸成や作業の効率化・活性化を目指しました。
- ② 理事会や各種委員会等については、コロナ禍ではありましたが、感染症対策を取りながら、ほぼ計画どおり開催しました。
- ③ 地域班長会議及び職群班長会議を開催し、班長を中心としたチームワークの醸成に努めました。
- ④ 草払い作業や剪定作業など主体となる外作業については、会員の高齢化や減少が進み、会員の補充は限定的となりました。
- ⑤ 令和4年度は、剪定・整枝講習及び刈払い講習を実施し、会員等の技能習得に努めました。
- ⑥ 「シルバーだより」を毎月発行し、情報の共有を図りました。

- ⑦ 刈払い機の替刃等の斡旋と配分金からの引き落としを行うなど、会員の利便性向上に努めました。

※刈払い機の替え刃 893枚、ヘルメット7個

## (2) 会員確保運動の強化

- ① 入会説明会を定期的実施し、新入会員の獲得に積極的に取り組みました。
- ② ハローワークにおいて、会員勧誘のチラシ配布を行い、入会説明会の参加に繋げるとともに、ハローワーク主催の「シニア世代のための求人活動セミナー」において、センターのPRを行いました。
- ③ 令和5年3月に「広報せんでがわ」を発行し、センター事業のPRと会員募集を広く周知しました。
- ④ 会員募集の新聞折り込みチラシや大型量販店への会員募集チラシの配置、その他郵便局の現金封筒広告を充実強化し新規会員の確保に努めました。
- ⑤ ホームページの定期的な更新や地域FMラジオCMを引き続き活用し、会員の入会促進や就業機会の新規拡大に努めました。
- ⑥ 各種同好会や会員相互の交流会については、新型コロナウイルス感染症が急拡大したため実施を見送りました。

## (3) 就業機会の開拓・拡大

- ① リピート率の向上を目指すため、常に受注者の立場にたった就業を心掛け、地域に期待され信頼されるセンターとなるように努めました。
- ② 就業場所においては「のぼり旗」を設置するとともに、丁寧な就業等に努め、センターのイメージアップの向上を図りました。
- ③ 一般労働者派遣事業においては、高齢者活用・現役世代雇用サポート事業を積極的に活用し、案内チラシの効果的な配布とコーディネーターを引き続き配置し派遣事業先の新規開拓に努めました。
- ④ 刃物研ぎ事業については、産業祭等において、広く市民に周知する機会がなく、なかなか実績に繋がりませんでした。

## (4) 安全・適正就業の推進

- ① 重篤事故が発生したことから、臨時に「安全・適正就業委員会」を開催し、再発防止策の検討や、会員への周知を行いました。
- ② シルバー就業は安全第一であり、「安全はすべてに優先する」という会員心得を最優先に、作業現場の事前確認を確実にを行うとともに、作業開始前のミーティング実施による危険個所の把握など安全就業に努めました。
- ③ 剪定・整枝講習及び刈払い講習を開催し、既存会員の安全適正教育に努めました。
- ④ 安全適正就業委員会において、事故等の検証を行い再発防止に努めるとともに、賠償責任事故を起こした会員に対しては注意書を発行し再発防止を促しました。
- ⑤ 毎月10日の安全の日に安全パトロールを実施しながら、作業現場での看板、のぼり旗の設置及び安全ベストの着用を徹底し、会員の事故防止に努めました。

※安全パトロール実施箇所数 26カ所

(川内：14、東郷：4、樋脇：2、入来：3、祁答院：1、甕：2)

- ⑥ 発注者や近隣者からの苦情や就業中における事故やケガの発生状況を、毎月発行する「シルバーだより」で会員へ周知し事故や苦情の防止に努めました。

(5) 地域社会への貢献

地域社会への貢献の一環であるボランティア活動の実施については、川内地域は天候不良のため実施できませんでしたが、その他の地域においては、公益法人として地域社会への貢献と普及啓発を兼ねた活動をそれぞれの地域で実施してもらい、シルバーが地域社会で喜ばれ信頼されるように努めました。

※ボランティア活動参加者 72名

(6) 事務局体制の充実と強化

- ① センター職員と会員が風通しのよい関係を保つために、会員・理事・役職員全体が働きやすく、明るい環境づくりに努めました。
- ② 見積制度への移行について、先進地研修をはじめとして、その在り方について協議を進め、令和5年度から本格的に取り組むことにしました。
- ③ 収支の見込みを適切に行い、事務局の経費節減に努めながら堅実な運営に努めました。
- ④ 適格請求書等保存方式（インボイス制度）への対応については、県内のシルバー人材センターの協議状況を参考にしながら、理事会において協議を重ね、事務費の引上げで対応することとしました。

令和4年度事業報告には、法人法施行規則第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」がないため、附属明細書は作成していません。